

# ニシキゴイの品質改良に関する研究—Ⅳ

## ブラチナの形付魚出現率について

田口錠次・宇野康司・都竹仁一

### Studies on the Artificial Selection of Coloured Carp —Ⅳ.

#### On the Appearance of Characteristic Purachina—Carp.

JOJI TAGUCHI, YASUSI UNO, NIICHI TUZUKU

1)2)3) 前報で形付魚の出現率について調査した結果、紅白20.9%、大正三色5.3%、緋写り3.5%、白写り1.2%、浅黄7.7%、秋水4.9%の出現率を見た。本報では、ブラチナの形付魚(優良魚)出現率について報告する。

を繁殖させておき、そこへ供試魚を放養し、ミジンコを食べ尽した時点で、こい用市販飼料に切換えた。

選別：飼育中8月6日と、9月27日の2回選別を行ない。形付魚以外は淘汰した。

試験地：長さ18 m×幅5 m×水深0.6 mのコンクリート池を使用した。

### 試験の方法

試験期間：1973年6月14日～9月27日

供試魚：第1表に示したニシキゴイ(*Cyprinus carpio*) ブラチナ親魚雌雄の交配から得られた孵化仔魚 3,000尾を用いた。

飼餌料：飼育は、前もって飼育池にミジンコ

第1表 親魚の大きさ

項目	体 重	体 長
親魚		
♀	2,800 <sup>g</sup>	570 <sup>mm</sup>
♂	2,300	520

## 結果及び考察

第1次選別結果は、第2表、第3表に示したとおり、その出現した品種の内訳は、山吹が、

1,429尾(61.0%)で最も多く、他はプラチナ622尾(26.5%)、張分け293尾(12.5%)であった。プラチナの中から光沢と色調の良い魚284尾(12.1%)を選抜魚として再放養し、残り2,060尾(78.8%)は淘汰した。

頭部の変形と尾柄部の湾曲した体形異常魚

第2表 第1次選別結果(1973, 8, 6)

区分	取上尾数	出現率	異常魚	異常魚出現率	平均体重
選抜魚	284 <sup>尾</sup>	12.1%	0 <sup>尾</sup>	0%	2.8 <sup>g</sup>
淘汰魚	2,060	78.8	827	35.3	2.6
合計	2,344	100	827	35.3	2.6

第3表 第1次選別時の全取上魚の品種別出現頻度(1973, 8, 6)

品種別内訳	取上尾数	出現率	体形異常魚の出現 尾数	出現率	平均体重
プラチナ	622 <sup>尾</sup>	26.5%	247 <sup>尾</sup>	10.5%	2.8 <sup>g</sup>
山吹	1,429	61.0	484	20.7	2.6
張分け	293	12.5	96	4.1	2.4
合計	2,344	100	827	35.3	2.6

第4表 第2次選別結果(1973, 9, 27)

区分	取上尾数	出現率	平均体重
形付魚	133 <sup>尾</sup>	48.5%	26.3 <sup>g</sup>
淘汰魚	141	51.5	21.3
合計	274	100	23.8

の出現が非常に多く、全体の35.3%を占めた。

占めた。

第2次選別結果は、第4表に示したとおり光沢、色調ともに優良な形付魚は133尾(46.8%)で、第1次選別時の取り上げ尾数に対する出現率は5.7%であった。淘汰魚は頭部から背鰭にかけての光沢がなく、ねず黄金系であった。

### 要約

1. プラチナの同品種間雌雄1対1の交配による、形付魚の出現率を調査した。
2. 出現した品種は、山吹61.0%、プラチナ 26.5%、張分け12.5%の出現率であった。
3. 期間中2回の選別を行った結果、形付魚(プラチナ)の出現率は5.7%であった。
4. 体形異常魚の出現が多く、全体の35.3%

### 文献

- 1) 田口錠次外2名, 1972: ニシキゴイの品質改良に関する研究-I, 紅白と大正三色の形付魚出現率について, 岐水試研報, №17
- 2) 田口錠次外1名, 1973: ニシキゴイの品質改良に関する研究-II, 白写り, 緋写りの形付魚の出現率について, 岐水試研報, №18
- 3) 岡崎稔外2名, 1974: ニシキゴイの品質改良に関する研究-III, 浅黄, 秋水の形付魚の出現率について, 岐水試研報, №19

### 材料及び方法

材料: 水生藻類は、当地で飼育中のアマロ